

(様式1)

環境配慮検討書

令和元年6月24日

三重県環境調整システム推進会議 会長 様

津農林水産事務所水産室長

三重県環境調整システム推進要綱第4条の規定に基づき提出します。

対象事業の名称	白塚漁港 県営漁港海岸保全事業	
連絡先	担当課所名	津農林水産事務所 水産室 水産基盤整備課
	電話番号	059-223-5133

1 事業の計画の名称、目的及び内容

(1)名称	白塚漁港 県営漁港海岸保全事業	
(2)目的	白塚漁港海岸堤防は老朽化が著しく防護機能を有していないことから、整備と背後地保全のため高潮対策を行う。	
(3)事業主体	津農林水産事務所	
(4)計画内容	①計画地の位置 (参考図-1 参照)	津市白塚町・河芸町地内
	②建物・施設等の概要 (用途、規模、面積、配置等) (参考図-2 参照)	海岸堤防延長 L=2,100m うち白塚工区 L=1,100m 河芸工区 L=1,000m
	③用水の使用計画	該当なし
	④エネルギーの使用 計画	該当なし
	⑤雨水、汚水の排水 計画	雨水: 該当なし 汚水: 該当なし
	⑥道路・交通計画	該当なし
	⑦工期	ア)着工の予定時期 イ)完工及び供用 開始 の予定時期
(5)関連事業計画	計画地の南側に隣接して国土交通省中部地方整備局管轄の堤防改良工事、北側及び白塚工区と河芸工区の間隣接して三重県津建設事務所管轄の堤防改良工事が進められている。	
(6)その他	特になし	

2 計画地の社会的条件の現況等

(1)計画地の社会的条件の現況	①交通の現況	堤防背後の都市計画道路は、生活道路として利用されている。
	②土地利用の現況	計画地は漁港区域内に位置しており、堤防背後には水産加工施設や集落が広がっている。
	③水域利用の現況	共同漁業権が設定されている。
	④生活関連施設の現況	生活関連施設の立地状況 a. 学校施設：小学校、保育園 b. 医療施設：病院 c. 文化施設：市民センター d. その他：漁業協同組合
(2)関係法令等による地域の指定・規制状況	①自然環境保全地域等の指定状況	自然環境保全地域(地区)、自然公園地域(区域)、鳥獣保護区の指定状況 a. 自然環境保全地域：指定なし b. 自然公園：伊勢の海県立自然公園 c. 鳥獣保護区：指定なし
	②土地利用規制の現況	都市計画法、農業地域振興法、森林法等の規制状況 a. 都市計画法：規制なし b. 農業地域振興法：規制なし c. 森林法：規制なし d. 砂防法：規制なし e. 地すべり等防止法：規制なし f. 急傾斜地災害防止法：規制なし g. 河川法：規制なし h. 海岸法：規制あり(海岸保全区域) i. 文化財保護法：規制なし j. 景観法：規制あり(津市景観計画)

3 計画地の自然的条件の現況

(1)地形・地質	文献調査	文献名	平成 30 年度 白塚漁港 県営漁港海岸保全事業 地質調査業務委託		
	現地調査の有無	有 <input checked="" type="radio"/> ・ 無 (実施日時 H30.9)		聴取調査の有無	有 <input type="radio"/> ・ 無 <input checked="" type="radio"/>
	調査結果等	<p>地形：計画地周辺の地形は、豊津浦に面した砂浜海岸に位置し、海岸低地の幅は約 1.5km に及び内陸部には 1m 程度の高まりをもった 2～3 列の砂堤（浜堤）とその間の低地（後背湿地）が発達する。</p> <p>地質：計画地周辺の沖積低地には海浜堆積物、砂堤、後背湿地が発達している。海浜堆積物は、粒度の揃った砂よりなる、砂堤は海岸砂が波浪により打ち上げられて形成された微高地で、同様に主に砂よりなる。後背湿地は微高地に挟まれた低地で、主にシルト・粘土が堆積する。</p>			
(2)水象	文献調査	文献名	なし		
	現地調査の有無	有 <input type="radio"/> ・ 無 <input checked="" type="radio"/> (実施日時)		聴取調査の有無	有 <input type="radio"/> ・ 無 <input checked="" type="radio"/>
	調査結果等 ①河川、湖沼 ②海域	<p>白塚漁港海岸の西側を二級河川志登茂川及び支川の横川が流下している。</p> <p>伊勢湾沿岸に位置している。</p>			
(3)気象・大気質等	調査の方法	津地方気象台平年値（1981～2010） 平成 30 年度版三重県環境白書			
	調査結果	<p>計画値最寄り(津市)の観測データは次のとおり</p> <p>a. 平均気温：15.9℃ b. 降水量：1,581.4mm/年 c. 平均風速：3.7m/s 北西 d. 大気質：SO₂（二酸化硫黄） 0.001ppm（年平均） NO₂（二酸化窒素） 0.008ppm（年平均） SPM（浮遊粒子状物質） 0.015ppm（年平均） e. 水質：類型 B COD 3.5mg/L (津・松坂地先海域 ST-1)</p>			
(4)生態系等	文献調査	文献名	平成 30 年度 白塚漁港 県営漁港海岸保全事業 環境調査業務委託		
	現地調査の有無	有 <input checked="" type="radio"/> ・ 無 (実施日時 H30.8.3)		聴取調査の有無	有 <input checked="" type="radio"/> ・ 無
	調査結果等 ①植物 ②動物	<p>植物相の概要：ハマボウフウ、ハマニガナやビロードテンツキが多く生息している。</p> <p>貴重な植物：ナガボノワレモコウ、ビロードテンツキ</p> <p>動物相の概要：シギ・チドリ・サギ等の砂浜を餌場として活用している鳥類が確認された。また、白塚工区北側及び河芸工区南側には、カワラハンミョウが確認された。</p> <p>貴重な動物：シロチドリ、コアジサン、ミユビシギ、オオソリハシシギ、カワラハンミョウ、クロズハマベゴミムシダマシ、スナサビキコリ、チョウセンゴモクムシ、ホソハマベゴミムシダマシ、アカウミガメ</p>			

(5)自然景 観・文化 財等	文献調査	文献名	なし	
	現地調査の有無	有 ・ <input checked="" type="radio"/> (実施日時)	聴取調査の有無	有 ・ <input checked="" type="radio"/>
	調査結果等	<p>①自然景観</p> <p>自然景観の概要：特になし</p> <p>貴重な自然景観：特になし</p> <hr/> <p>②文化財、史 跡、名勝等</p> <p>史跡・名勝・天然記念物：特になし</p> <p>埋蔵文化財包蔵地：特になし</p> <hr/> <p>③野外レクリエー ション 他</p> <p>特になし</p>		
	①自然景観			
②文化財、史 跡、名勝等				
(8)その他、 自然災害 等	<p>昭和 28 年の台風 13 号により、白塚堤防が一部決壊し、床下浸水が 130 戸発生する等甚大な被害を受けた。</p> <p>また、昭和 34 年においても、伊勢湾台風による氾濫が発生し、床下浸水が 130 戸発生している。</p>			

4 事業計画の検討内容(複数案比較)

※用地選定が異なる計画、同じ用地での異なる計画等との比較を行う。比較検討用の位置図を添付すること。

	事業計画案	比較検討(A案)	比較検討(B案)
(1)計画の概要	既設堤防の高潮・老朽化対応として場所打ち式傾斜堤を計画する。	既設堤防の高潮・老朽化対応としてプレキャスト式傾斜堤を計画する。	既設堤防の高潮・老朽化対応として二重矢板式案を計画する。
(2)環境評価(※左欄に◎○△を相対評価で記入し、右欄に評価の理由を記入)			
①循環を基調とした持続的発展が可能な社会の構築 ②人と自然が共にある環境の保全 ③やすらぎと潤いのある快適な環境の創造			
①-1 地球温暖化防止	○ 比較案に比べ、建設機械が小型であるため、Co2排出量が少ない。	△ 計画案に比べ、プレキャスト部材の据付重機が大型となるため、Co2排出量が多い。	△ 計画案に比べ鋼材の製造・輸送が生じ、また、建設機械が大型となるため、Co2の排出量が多い。
①-2 廃棄物対策	○ 比較案Bに比べ、既設堤防の撤去量が少いため、廃棄物の発生が少ない。	○ 比較案Bに比べ、既設堤防の撤去量が少いため、廃棄物の発生が少ない。	△ 計画案に比べ、既設堤防の撤去量が多くなるため、廃棄物の発生が多い。
①-3 生活環境の保全	○ 堤防天端上より工事を行うことになるため、工事期間は堤防利用ができなくなるが、比較案Bに比べ、その期間は短くなる。	○ 堤防天端上より工事を行うことになるため、工事期間は堤防利用ができなくなるが、比較案Bに比べ、その期間は短くなる。	△ 堤防天端上より工事を行うことになるため、工事期間は堤防利用ができなく、計画案に比べ、その期間は長くなる。
①-4 その他の重点項目	- 特になし	- 特になし	- 特になし
②-1野生植物等の生育空間の確保	○ 現況の堤防敷での施工であり、海浜環境を大きく変えないため、海浜植生への影響は少ない。	○ 現況の堤防敷での施工であり、海浜環境を大きく変えないため、海浜植生への影響は少ない。	○ 現況の堤防敷での施工であり、海浜環境を大きく変えないため、海浜植生への影響は少ない。
②-2希少な野生生物の保護	○ 現況の堤防敷での施工であること、振動の発生が少ない工法であることから、野生生物への影響は少ないと考えられる。	○ 現況の堤防敷での施工であること、振動の発生が少ない工法であることから、野生生物への影響は少ないと考えられる。	△ 計画案に比べ、矢板打設時に振動が発生するため、多少の影響は考えられる。
②-3地形、地質等の改変の抑止	○ 地形、地質の改変はない。	○ 地形、地質の改変はない。	○ 地形、地質の改変はない。
②-4 その他の重点項目	- 特になし	- 特になし	- 特になし
③-1緑化、周辺景観との調和	○ 現況の堤防高より1~1.5m程度嵩上げするが、海岸眺望の維持に配慮し、天端道路とパラペットの工程差を0.8mに抑えるため、周辺景観との調和は維持される。	○ 現況の堤防高より1~1.5m程度嵩上げするが、海岸眺望の維持に配慮し、天端道路とパラペットの工程差を0.8mに抑えるため、周辺景観との調和は維持される。	○ 現況の堤防高より1~1.5m程度嵩上げするが、海岸眺望の維持に配慮し、天端道路とパラペットの工程差を0.8mに抑えるため、周辺景観との調和は維持される。
③-2親水等、ふれあい空間づくり	○ 天端道路とパラペット高に0.8mの工程差が生じるが、小規模な階段工や斜路工を設置するため、海浜部へのアクセスは現状とそれほど変わらない。	○ 天端道路とパラペット高に0.8mの工程差が生じるが、小規模な階段工や斜路工を設置するため、海浜部へのアクセスは現状とそれほど変わらない。	○ 天端道路とパラペット高に0.8mの工程差が生じるが、小規模な階段工や斜路工を設置するため、海浜部へのアクセスは現状とそれほど変わらない。
③-3 その他の重要事項	- 特になし	- 特になし	- 特になし
④上記以外の特記事項	- 特になし	- 特になし	- 特になし

5 事業計画案の環境配慮に係る評価

長所	・現況の堤防敷での施工であり、海浜環境を大きく変えない現状の生態系を維持できる。
短所	・施工時に一時的に堤防利用ができなくなる。
会議で調整を要する事柄	特になし

参考図-1



参考図-2

